

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2024/10/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年11月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは10月31日（木）9:00現在
※休日の実績は前営業日

		10月30日現在	11月の予想 (月末値)	
USD	ドル・円 (円)	153.42	142.0 ~ 157.0	150.0
	日米金融政策を睨みながら、徐々にドルの上値が重くなる展開			
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	1.086	1.06 ~ 1.10	1.09
	ユーロ・円 (円)	166.55	155.0 ~ 170.0	163.5
	ECBはややハト派化も、市場の利下げ織り込みは行き過ぎか			
GBP	ポンド・ドル (ドル)	1.296	1.27 ~ 1.33	1.30
	ポンド・円 (円)	198.86	185.0 ~ 205.0	195.0
	日英金融政策の方向性の違いからポンド円は上値の重い展開			
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	100.83	97.0 ~ 105.0	101.0
	NZドル・円 (円)	91.61	89.0 ~ 95.0	92.0
	豪ドル・NZドルは対円で徐々に上値が重くなるか			
株式 相場	日経平均 (円)	39,277	36,000 ~ 42,000	40,000
	11月の大統領選通過後は株高を予想			
	NYダウ (ドル)	42,142	40,000 ~ 45,000	43,000
長期 金利	大統領選通過で株高。そして、AIへの強い需要を確認する月となろう			
	日本 (%)	0.950	0.85 ~ 1.10	1.050
	財政の拡大懸念と日銀の政策金利の正常化見通しにより金利は上昇			
	米国 (%)	4.300	3.80 ~ 4.40	4.100
	トランプ氏への過度な警戒感が和らぐ中で、金利はやや低下しよう			

◆ 今月の注目ポイント

米国の重要イベントを無難に通過できるか

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
米大統領選	◎	[5日 米大統領選] 世論調査は依然接戦であり、どちらが勝つか不透明な状況が続いているが、議会選はねじれ議会になれば両候補の極端な政策の実現可能性が低下することから株高の反応となりそう。トランプ氏、上下院ともに共和党のトリプルレッドになった場合は、財政悪化への懸念から金利が上昇するリスクがあるだろう。また、僅差の場合、開票作業が混乱し、確定結果の公表がかなり後ズレするかもしれない、マーケットが不安定化する可能性にも注意が必要となる。
FOMC	◎	[7日 FOMC] FRBは9月に50bpの大幅利下げで緩和局面をスタートした。金利先物市場は年内あと2回のFOMCにて40bpほどの利下げを織り込んでいるが、足元の米経済指標は予想を上回る強いものが多く、どちらか一方での利下げにとどまる可能性がある。11月は連続利下げが決定される公算が大きい、12月の利下げの有無を予測する上でパウエル議長の会見は注目度が高まるだろう。

◆ アジア通貨見通し

	10月30日現在	11月の予想 (月末値)	
人民元・円	21.53	20.00 ~ 22.00	21.00
バーツ・円	4.543	4.30 ~ 4.70	4.50
ルピア・円	0.977	0.94 ~ 0.99	0.97

◆ 今月の重要日程

1日 (金) 米 10月雇用統計	7日 (木) 米 FOMC
1日 (金) 米 9月ISM製造業	13日 (水) 米 10月CPI
5日 (火) 米 9月ISM非製造業	15日 (金) 日 7-9月期GDP (一次速報)
4日 (金) 米 9月雇用統計	15日 (金) 米 10月小売売上高
5日 (火) 米 大統領選挙	22日 (金) 日 10月全国CPI
7日 (木) 日 9月毎月勤労統計	26日 (火) 米 FOMC議事要旨

◎ 注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

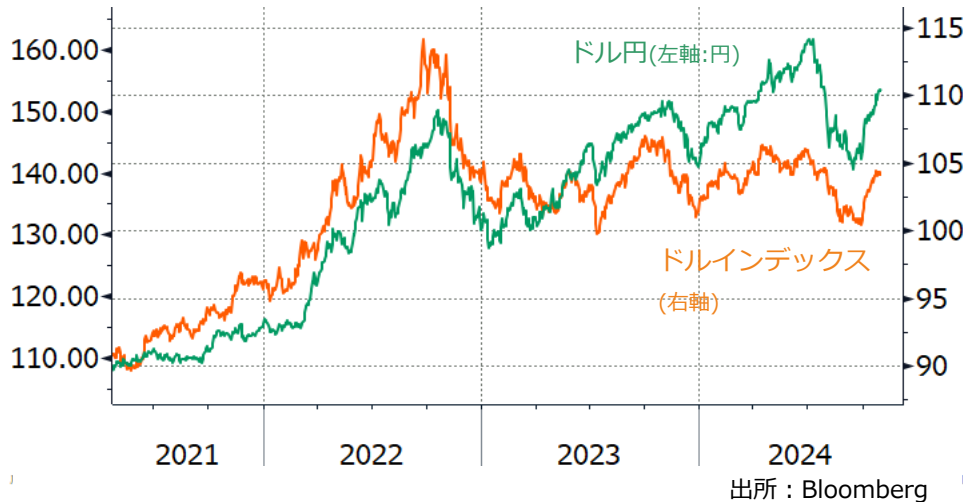
2024/10/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年11月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



米ドル円

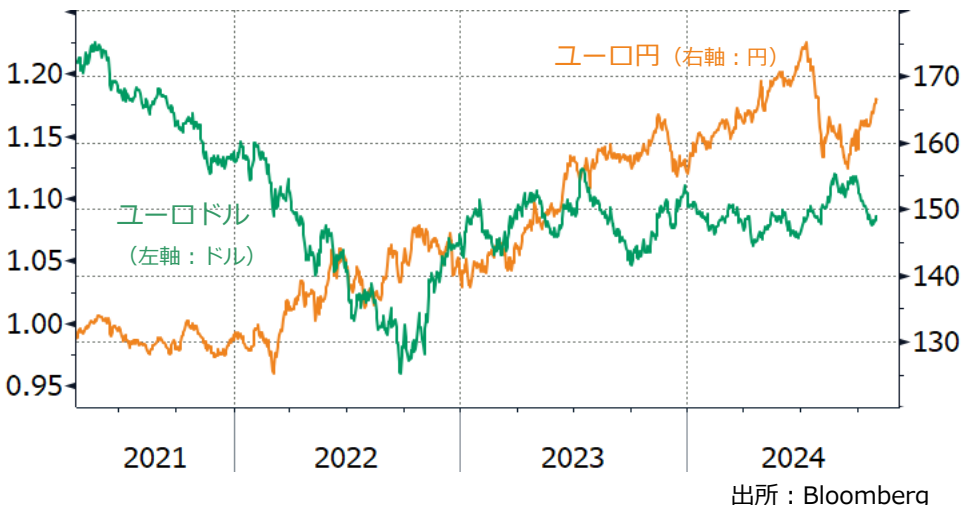
142.00 – 157.00円

米大統領選挙通過後は、日米金融政策を睨みながら、徐々にドルの上値が重くなる展開

10月のドル円相場は、雇用統計や小売売上高などの強い米経済指標を受けたドル買いや、衆院解散総選挙に伴う政治不安を背景とした円売りの動きにドル円は堅調な値動きが継続。7月以来のドル高円安水準となる153円台を回復した。

11月のドル円は、上値の重い展開を見込む。FRBは9月に利下げ局面を開始したが、その後の経済指標は予想を上回るものが多く、今後はデータを確認しながら緩やかな利下げパスをたどる可能性が高い。国内では10月の衆院選で与党過半数割れとなり政局不安が懸念されているが、企業の賃上げや価格転嫁動向は順調であり、金融市場の落ち着きを見極めつつ日銀は12月か1月に追加利上げに踏み切る公算。11月は米大統領選が最大の焦点となるが、議会がねじれ議会になれば両候補の極端な政策の実現可能性が低下することから株式市場は落ち着いた反応となると見ている。但し、僅差の場合、開票作業が混乱しマーケットが不安定化する展開には注意が必要となる。目先のドル円は、米大統領選挙通過後は日米金融政策を睨みながら、徐々にドルの上値が重くなる展開を見込む。

ユーロ



ユーロドル

1.06 – 1.10ドル

ユーロ円

155.00 – 170.00円

ECBはややハト派化も、市場の利下げ織り込みは行き過ぎか

10月のユーロは、対ドルで下落した。ユーロ圏のPMIが市場予想を下振れて景況感の悪化が意識され、さらにCPIの下振れからインフレが2%を下回る懸念が台頭し、10月会合の利下げ観測が高まったためだ。ECBは10月会合で2会合連続となる25bpsの利下げを決定したが、会合で経済やインフレの下振れリスクが強調されたことがややハト派的と受け止められ、12月会合でおよそ半分の確率で50bpsの大幅利下げが織り込まれるなど次会合以降の利下げ織り込みが大きく進んだ。

11月のユーロは、基本的には底堅いとみている。確かに、ユーロ圏経済は製造業を中心に当初のECBの想定よりも弱含んでおり、加えて総合CPIは2%を切る水準にまで下落した。しかし、サービスインフレは依然として高止まりを続けるほか、労働市場の逼迫も解消しないままであり、利下げペースの加速はインフレ再燃懸念を伴う。そのため、現在の利下げ織り込みはやや行き過ぎているように見受けられ、徐々に揺り戻しのユーロ買いが出てくるのではないかと見られる。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

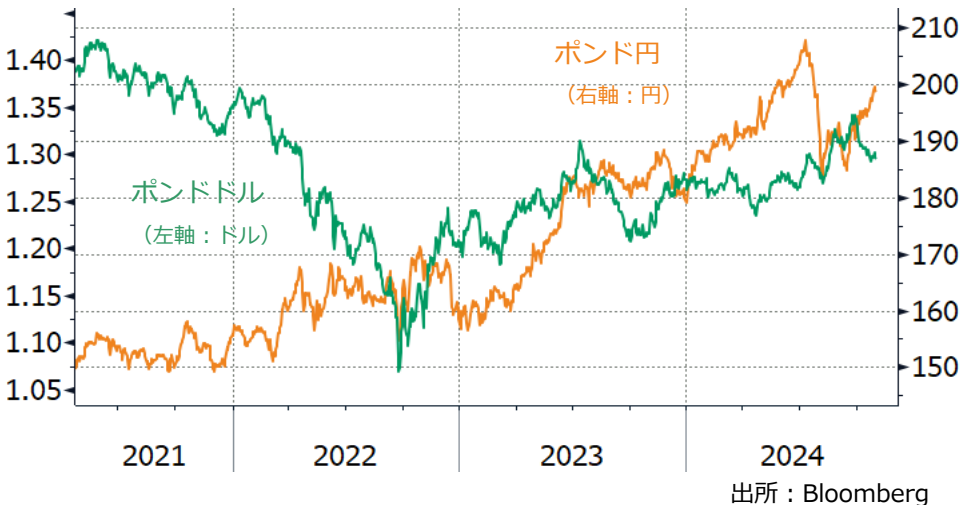
◎ 注意事項をよくお読み下さい

2024/10/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年11月号)りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し② 為替（ポンド・豪ドル・NZドル）

ポ ン ド



ポンドドル

1.27 – 1.33ドル

ポンド円

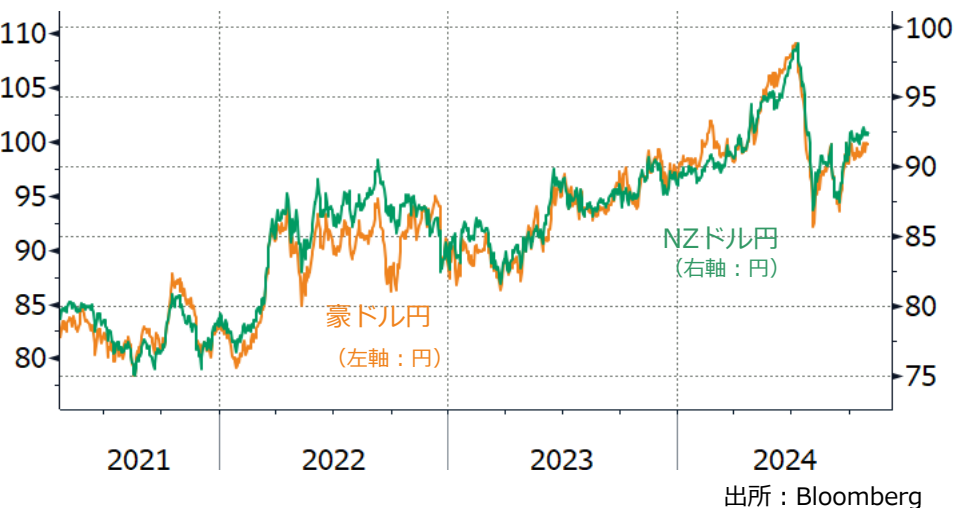
185.00 – 205.00円

日英金融政策の方向性の違いからポンド円は上値の重い展開

10月のポンドは、強い米経済指標を受け、過度なFRB利下げ期待の剥落からドルの買戻しが進み対ドルで軟調に推移。一方、対円では国内の政治不安の高まりを背景に全般的な円売りが進み、ポンド円は7月以来のポンド高円安水準となる199円台回復と、じり高基調となった。

11月のポンド円は、日英金融政策を意識しながら上値の重い展開を見込む。ベイリー-英中銀総裁は「デイスインフレは我々の見込みより速いペースで起きている」と追加利下げを示唆しており、英中銀は11月7日の会合で8月以来2会合ぶりの利下げを決定する見込み。市場ではさらに12月会合での連続利下げを織り込みつつあるが、ベイリー総裁は高止まりするサービス価格のインフレ率が「さらに低下する必要がある」と市場の過度な利下げ織り込みをけん制しており、今後の利下げパスはデータ次第。日銀は順調な賃上げと価格転嫁動向を背景に12月あるいは1月に追加利上げの可能性がある。日英金融政策の方向性の違いから、11月のポンド円は上値の重い展開を見込む。

豪 ド ル ・ N Z ド ル



豪ドル円

97.00 – 105.00円

NZドル円

89.00 – 95.00円

豪ドル・NZドルは対円で徐々に上値が重くなるか

10月のオセアニア通貨は対ドルでは軟調に推移した。堅調な米経済を受けたFRBによる利下げ織り込みが後退するなかでドルが買われやすい地合いとなったほか、中東情勢の不透明感もオセアニア通貨には重となった格好だ。一方、対円では底堅い推移となった。石破首相のハト派変節を受けた日銀による早期利上げ観測の後退や、衆議院解散総選挙において与党が過半数を割れるとの見方から政治に対する不透明感が意識された円売りが背景にある。

11月のオセアニア通貨は対円で次第に上値が重くなる展開を見込む。日銀が12月もしくは1月にも追加利上げを行うとの観測が徐々に高まって円金利の先高観が意識されるようになるとみている。ただし、依然として豪州国内の物価や雇用は強く、豪中銀は年内に利下げ局面入りしないとみられる。また、米大統領選やFOMCなどの重要イベント通過後にリスクオンムードが高まった場合は新興国通貨が買われやすく、豪ドル・NZドルを下支えすると考えられる。

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

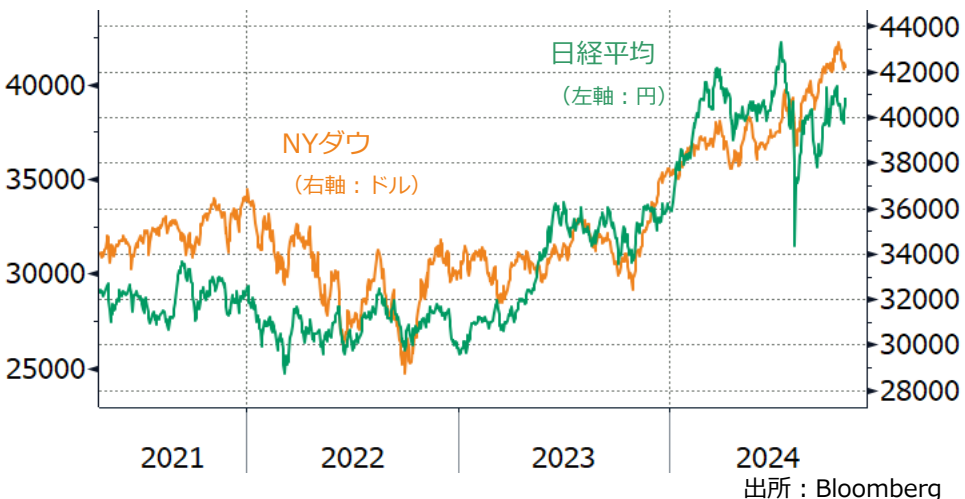
2024/10/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年11月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



日経平均

36,000 – 42,000円

11月の大統領選通過後は株高を予想

11月の大統領選は、株式市場に友好的なトランプ氏が優勢。仮に予想に反してハリス氏勝利でも、議会はねじれる公算大。この場合、ハリス氏の掲げるリベラル色の強い政策(法人増税や金融所得課税)の実現可能性は低く、いずれの場合も、株価はイベント通過を好感して上昇する可能性が高い。また、国内固有要因としては、中間決算が佳境を迎える中、会社計画の上方修正に注目。期初計画は保守的な企業が多かったため、上方修正を期待している。

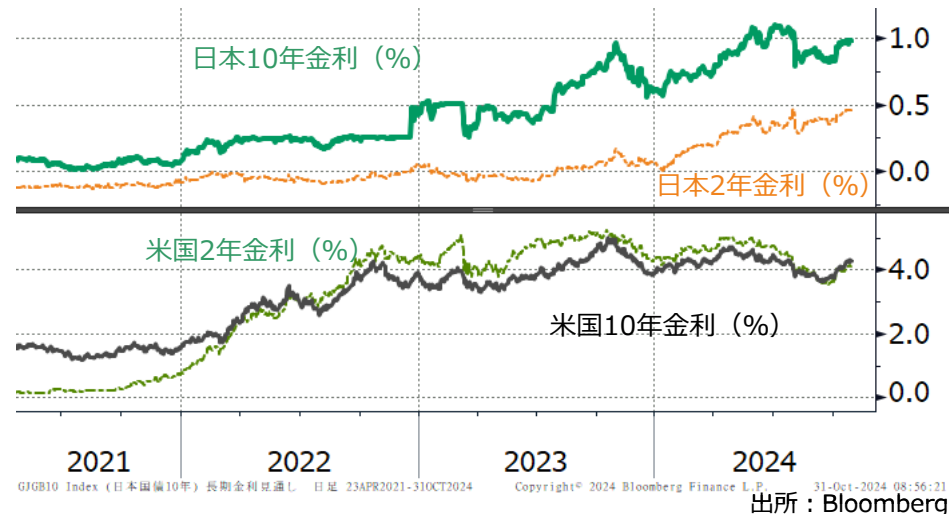
NYダウ

40,000 – 45,000ドル

AIへの強い需要を確認する月となろう

大統領選通過で株高のシナリオは上記で説明した通り。米国固有の材料としては、強いAIへの需要があろう。特に11月21日に予定されているエスビディアの決算に注目。同社の設計した半導体の製造を委託されているTSMCの決算は、先端半導体需要等を背景に、売上高は四半期ベースで過去最高であった。エスビディアの決算も良好な数値が示される公算が大きく、その場合は、他のハイテク株にも好影響が波及し、指数上昇のけん引役となろう。

長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年

0.85 – 1.10%

財政の拡大懸念と日銀の政策金利の正常化見通しにより金利は上昇

10月27日に投開票が行われた衆議院選挙では、自民党・公明党の連立の議席数が過半数を割った。これによって、今後は自民党・公明党の連立が野党の政策を取り入れざるを得なくなり、財政政策が拡張方向に行く可能性が高まった。また、マクロ経済面からは日本銀行が追加利上げをする環境は整っており、政治の混乱がありながらも、長期金利は緩やかに上昇していくことが見込まれる。

米国債10年

3.80 – 4.40%

トランプ氏への過度な警戒感が和らぐ中で、金利はやや低下しよう

マーケットでは、トランプ氏が大統領選で勝利することを織り込みつつある。同氏の掲げる政策は、政府の財政赤字を悪化させる可能性がある他、インフレ再燃のリスクが指摘されていること等から、金利は上昇で反応している。もっとも、現在のインフレ率などの諸条件から計算される金利の理論値は4%前後であり、足元の金利は理論値を上回っている。トランプ氏への過度な警戒感が窺えるが、それが時間の経過とともに和らぐ中で、金利は緩やかに低下することを見込む

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

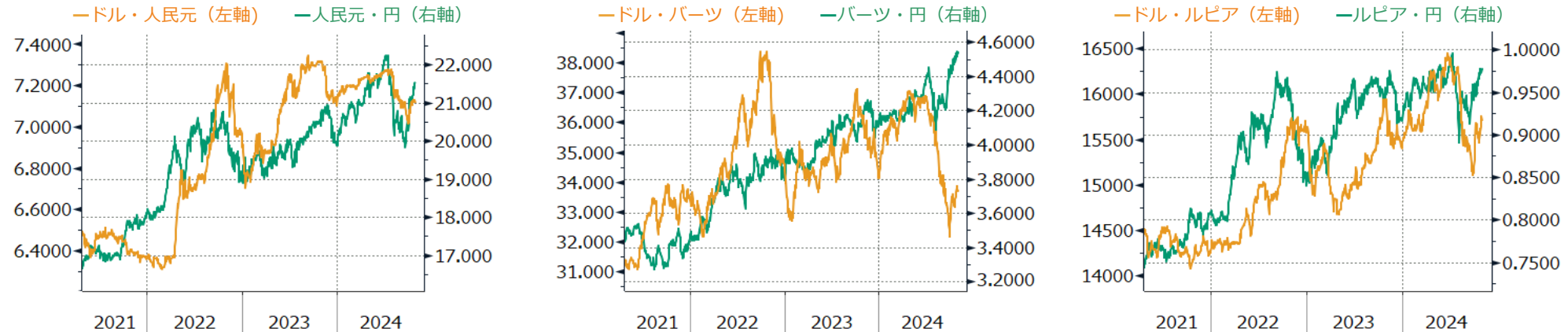
◎ 注意事項をよくお読み下さい

2024/10/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年11月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨（アジア）

		11月の予想	見通し
中国	人民元/円	20.00 ～ 22.00	米国の大幅な緩和期待が後退し、中国景気の回復期待でドル人民元は横ばいか 10月は、主要な経済統計が米国のソフトランディングを示唆し、FRBの大幅利下げ期待が後退したことでドル人民元は上昇した。11月は米大統領選挙もあり米金利が上昇しやすい局面があるものの、中国当局が打ち出した経済対策によって中国経済の回復期待が高まっていくことも見込まれ、ドル人民元は横ばいの推移となりそうだ。
	ドル/人民元	7.00 ～ 7.20	
タイ	バーツ/円	4.30～4.70	新首相への期待や中国景気刺激策等からバーツ高が進行も悪影響を懸念する声が高まる 10月のバーツは、米国における利下げ期待の後退や大統領選への不確実性への警戒感等による米金利上昇のほか、予想外のタイ中銀による政策金利引き下げ等もあってドルに対して弱含み推移となり、前月上げ幅のほとんど失っている。引き続きバーツ相場は不安定な動きとなろうが、タイ中銀は追加の金融緩和について慎重姿勢であることや中国の景気刺激策への期待感などがサポート材料となると思われる。
	ドル/バーツ	32.0～35.0	
インド	100ルピア/円	0.94～0.99	ルピアは外部要因により弱含みで推移中、しばらくは落ち着きどころを探る展開へ 10月のルピアはバーツ同様に米国要因のほか、中東情勢への警戒感なども重なり対ドルで大きく下落した。一方で、インドネシア中銀がルピア買い介入の実施による通貨安定への強い姿勢を示していること、またプラボウォ新大統領政権への期待などルピア支援材料も多いことなどから、ルピア相場は徐々に落ち着きを取り戻しそうだ。
	ドル/ルピア	15,200～16,000	



◎ 注意事項をよくお読み下さい

2024/10/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年11月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 年間為替見通し

		2024年	2025年			ポイント
		10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	
ドル円	レンジ	135～160	130～150	130-150	125-145	FRB利下げサイクル入りと日銀による追加利上げ観測を背景にドル円は上値の重い展開に。米大統領選および議会選挙の結果と新政権の政策に注目。
	期末値	145	140	140	135	
ユーロドル	レンジ	1.06 ～ 1.15	1.08 ～ 1.17	1.08 ～ 1.18	1.09 ～ 1.19	足元の景気は製造業中心に停滞感が強く市場は利下げペースの加速を見込んでいる。ただし、サービス物価高止まりは続いており、インフレ再燃懸念が未だ燦るなかでは行き過ぎた利下げ織り込みは巻き戻されてユーロは次第に堅調に推移するとみる。
	期末値	1.11	1.13	1.13	1.14	
ユーロ円	レンジ	155 ～ 170	150 ～ 165	150 ～ 170	145 ～ 165	
	期末値	161	158	158	154	
ポンドドル	レンジ	1.26～1.36	1.25～1.35	1.25～1.35	1.25～1.35	英中銀はインフレの緩和に鑑み8月より利下げサイクル局面を開始したが、高止まりするサービスインフレから、緩やかな利下げパスが想定される。年末から日銀の追加利上げが意識され始め、ポンド円は徐々に上値が重くなる展開に。
	期末値	1.31	1.30	1.30	1.30	
ポンド円	レンジ	180～205	172～192	172～192	165～185	
	期末値	190	182	182	175	
ドル人民元	レンジ	7.00 ～ 7.20	6.90 ～ 7.10	6.80 ～ 7.00	6.70 ～ 6.90	中国当局は通貨価値防衛から景気浮揚へと軸足を移しており、人民元安を容認する姿勢を示している。金融緩和を含めた景気支援策や不動産市場支援策による中国経済の回復は元の上昇要因だが、FRBが緩和局面を開始したことから、ドル人民元も持続的に下落していく。
	期末値	7.10	7.00	6.90	6.80	
人民元円	レンジ	19.50 ～ 22.50	18.50 ～ 21.00	19.50 ～ 21.50	19.00 ～ 21.00	
	期末値	20.42	20.00	20.29	19.85	
豪ドル円	レンジ	90.00～106.00	91.00～107.00	90.00～106.00	88.00～104.00	豪中銀の利下げ開始は来年にずれ込む見通し。中国の金融緩和が功を奏して景況感が回復すれば、次第に底堅い動きとなりそう。
	期末値	98.00	99.00	98.00	96.00	
タイバーツ円	レンジ	4.00～5.00	4.10～5.10	4.10～5.10	4.00～5.00	観光業の回復、景気支援策から底堅く推移するが、日銀政策修正の思惑で徐々に下落へ。
	期末値	4.50	4.60	4.60	4.50	

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2024/10/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年11月号)りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
11/1(金)		10月ISM製造業景況指数	(中) 10月製造業PMI
		10月雇用統計	
11/3(日)	(文化の日)		
11/4(月)	(振替休日)	3年債入札	
		9月製造業受注	
11/5(火)		10月ISM非製造業景況指数	(豪) 準備銀行理事会
		10年債入札	
		9月貿易収支	
11/6(水)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (9/19～20開催分)	30年債入札	(中) 10月貿易統計
11/7(木)	10年債入札	FOMC (結果発表)	(英) BOE金融政策委員会
	9月毎月勤労統計 (速報)		
11/8(金)	9月家計調査		
11/9(土)			(中) 10月CPI
11/11(月)	10月景気ウォッチャー調査	(退役軍人の日)	
11/12(火)			(独) 11月ZEW景気指数
11/13(水)	10月企業物価指数	10月CPI	
	30年債入札		
11/14(木)		10月PPI	(欧) 7-9月期GDP (速報値)
11/15(金)	5年債入札	10月小売売上高	(中) 10月生産・小売・投資
	7-9月期GDP (一次速報値)	11月NY連銀製造業景気指数	

	日本	米国	その他
11/18(月)	9月機械受注		
11/19(火)		10月住宅着工・許可件数	
11/20(水)	10月貿易統計	20年債入札	
11/21(木)	20年債入札	10月中古住宅販売	
		11月フィラデルフィア連銀製造業景気指数	
11/22(金)	10月消費者物価指数		(欧) 11月PMI (速報値)
11/23(土)	(勤労感謝の日)		
11/25(月)		2年債入札	(独) 11月IFO企業景況感指数
11/26(火)		10月新築住宅販売	
		11月消費者信頼感指数	
		5年債入札	
		FOMC議事要旨	
11/27(水)	40年債入札	10月個人所得・消費支出	
		7-9月期GDP (改定値)	
		7年債入札	
11/28(木)		(感謝祭)	
11/29(金)	10月鉱工業生産		
	10月住宅着工件数		
	10月労働力調査		
	2年債入札		
11/30(土)			(中) 11月PMI



◎ 注意事項をよくお読み下さい

2024/10/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年11月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

中国の動向-主要トピックス

りそな銀行上海駐在員事務所

【9/28～10/10】

◎ 国慶節の人出が20 億人超え 前年比4%増、旅行市場に底堅さ

中国中国国営中央テレビ（CCTV）系の央視新聞によると、今年の国慶節連休（建国記念日連休、10 月1～7 日）は、全社会地域間人員流動量（国内の鉄道・航空・船舶旅行輸送量と道路利用者数の合計）が20 億800 万人となり、1 日当たりの人数は前年同期比4.1%増えた。その中に、道路利用者数が18 億5,000 万人、航空旅客輸送量が1,612 万人で、連休中の旅行者数が7 億6,500 万人を超え、旅行消費が7,008 億元（約14 兆6,700 億円）となった。国内旅行需要は昨年のようなブームとはなっていないものの、堅調を維持している。

【10/11～10/17】

◎ ホテル業界の見通し改善、6 割「来増収」

中国ホテル業界では今後の見通しを楽観する見方が増えている。米不動産サービス大手ジョーンズ・ラング・ラサール（JLL）によると、今年の中国ホテル業界は苦しい状況にあるが、政府の旅行振興支援や国内旅行の人気継続、インバウンド（訪中旅行）の拡大などが背景で、ホテル業者の約6 割は来年の収入が今年を上回ると見通した。一方、人件費の高まりを受け、サービスロボットや人工知能（AI）などの新興技術を業務に活用する動きが広がり、経営効率を高めるそうだ。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2023/11	2023/12	2024/1	2024/2	2024/3	2024/4	2024/5	2024/6	2024/7	2024/8	2024/9
実質GDP成長率	%	-	5.2	-	-	5.3	-	-	4.7	-	-	4.6
消費者物価上昇率	%	-0.5	-0.3	-0.8	0.7	0.1	0.3	0.3	0.2	0.5	0.6	0.4
都市部調査失業率	%	5.0	5.1	5.2	5.3	5.2	5.0	5.0	5.0	5.2	5.3	5.1
輸出額	10億ドル	292.6	303.3	306.5	219.5	278.4	291.4	301.8	307.4	300.4	308.5	303.7
輸入額	10億ドル	223.4	228.4	222.3	180.8	220.8	219.8	219.8	208.6	215.5	217.4	221.9
経常収支	100万ドル	-	252,987	-	-	39,213	-	-	93,739	-	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,171.8	3,238.0	3,219.3	3,225.8	3,245.7	3,200.8	3,232.0	3,222.4	3,256.4	3,288.2	3,316.4
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.22	7.14	7.17	7.19	7.20	7.24	7.23	7.25	7.26	7.15	7.08

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎ 注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年11月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○中国では異常気象が続く

今年の中国では高温や洪水等の異常気象が各地で発生しました。

中国应急管理局によると、2024年上半期は自然災害により931億6,000万元（約2兆600億円）の経済損失が発生し、昨年同期の3倍近い損害額となりました。全国で3,238万人に被害を及ぼし、死亡者数は322人に達しました。特に今年の夏には全国地域での豪雨が多く、北方地域も記録的な洪水が発生しました。应急管理局が発表した8月の全国自然災害状況のデータによると、直接経済損失額が424億元（1兆185億円）に達し、843万人に被害を与え、死亡者数が107人に達しました。

中国では各地の耕作地が洪水や猛暑の影響を受け、野菜価格がこの夏に4割超も急上昇しています。国営中央テレビによると、主要な野菜28品目を対象に算出した全国平均の卸売価格は、6月16日の1キログラム当たり4.27元（約87円）から8月15日には6.01元（約122円）となり、平均40.7%上昇しました。キュウリやネギの上昇率は50%以上に達しました。白菜は中国で安い商品の代表例として各種セールの売り文句に用いられますが、現在、白菜は「金菜」に変わったと言われています。

農業の専門家によると、今回の価格上昇は特に幅広く、長期にわたっているとしています。景気や雇用悪化で所得が増えない中、野菜の高騰がより家計の負担になっています。

今年は異常気象が頻発する中、多くの人は気候変動が身近な生活に与えた影響を実感し、自然との共生の重要性を認識しました。産業の変革は重要ですが、自然環境の回復や避難知識・能力を養う重要性もますます高まっています。

○中国、国慶節連休の住宅販売好調

中国不動産業界のシンクタンク中国指数研究院は8日、今年の国慶節連休（1-7日）の住宅販売が好調だと発表しました。

主要25都市の1日当たりの住宅販売面積は、前年同期比で2割以上増えたと発表しました。1級都市（北京市、上海市、広州市、深セン市）は18%増、2級都市（地方大都市）に属する11都市は7%増、3-4級都市（地方中小都市）に属する10都市は69%増でした。また、連休期間の新築住宅の販売件数も前年同期比で大幅に増加し、北京市が2倍、上海市が2.8倍、深セン市が7.6倍となりました。

中国の秋はもともと住宅需要が高まる傾向があります。また、中国人民銀行が連休に入る前に住宅ローン金利の引き下げを進めることや、住宅ローンを利用する時の最低頭金を一律15%まで引き下げる方針を表明しました。その後、北京市、上海市を含む多くの都市が住宅購入資格の制限などを緩和し、住宅購入意欲を更に刺激しました。

また、9月末に発表した景気刺激策の影響で、中国株が急伸びしました。上昇率は今年の下げ幅を埋める水準に近づいた為、保有株を売却し、大都市の不動産に投資する人が増えたのも住宅販売好調の一因だと指摘されています。

ところが、近年の住宅政策と同様、今回の政策効果も一時的なものにとどまる可能性があると言っています。中国指数研究院は年内の住宅市況は中国人民銀行の措置を背景に上向くものの、市況がその後も継続的に回復するには経済見通しが改善し、実需が拡大する必要があるとの見方を示しました。

◎注意事項をよくお読み下さい

2024/10/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年11月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆2024年8月の国内経済、前月からの勢いを維持

タイ中央銀行の2024年8月の経済報告書によると、タイ経済は前月とほぼ同水準で、経済活動が回復を見せた前月の勢いを維持したとの見方を示した。輸出や政府支出は増加し、民間消費指数も前年同月比0.5%増と、前月の0.2%減から改善した。他に、外国人旅行客数が前月比減少したものの、一人当たり支出額の増加が観光収入を支えた。半面、鉱工業生産指数は同1.9%低下した。自動車、ゴム・プラスチック製品、電気製品等の生産減少が響いた。民間投資も同3.7%増で、前月の5.1%から縮小した。建設投資は伸びた一方、設備投資は減った。

◆2024年9月のCPI上昇率、0.61%上昇に加速

タイ商務省が発表した2024年9月の一般消費者物価指数（CPI）の平均値は、前年同月比0.61%上昇した。前月の0.35%増から加速した。分野別では、食品・飲料が前年同月比2.25%上昇した一方、非食品が同0.55%下落した。洪水被害で収穫量が減っていることにより、生鮮野菜は同12.8%上昇し、指数を押し上げた。

◆2024年8月の輸出額、前年同月比7.0%増加

タイ商務省によると、2024年8月の輸出額は前年同月比7.0%増の261億8,230万米ドルと、前月に続きプラスとなった。世界的な異常気象の影響で食品類や農物の需要が高まった。農産物・加工品の輸出は前年同月比17.4%増、主要工業製品は同5.2%増とそれぞれ拡大した。

◆2024年1～8月の自動車生産台数、前年同期比17.7%減少

タイ工業連盟（FTI）によると、2024年1～8月の自動車生産台数は100万5,749台で、前年同期比17.7%減だった。内訳は乗用車が37万6,034台（同11.1%減）、商用車が62万9,715台（同21.2%減）だった。国内の新車販売台数は前年同期比23.9%減の39万9,611台で、20%を超えるマイナスが7カ月続いている。完成車輸出台数は同4.9%減の68万8,633台。輸出額は同5.1%増の4,802億630万バーツだった。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2023/11	2023/12	2024/1	2024/2	2024/3	2024/4	2024/5	2024/6	2024/7	2024/8	2024/9
実質GDP成長率	%	-	1.7	-	-	1.6	-	-	2.3	-	-	-
消費者物価上昇率	%	-0.4	-0.8	-1.1	-0.8	-0.5	0.2	1.5	0.6	0.8	0.4	0.6
失業率	%	1.0	0.8	0.8	0.8	1.0	1.0	1.0	1.1	1.1	1.1	-
輸出額	100万ドル	23,674	22,787	22,650	23,385	24,961	23,279	26,219	24,797	25,721	26,182	-
輸入額	100万ドル	25,609	21,566	25,408	23,939	26,124	24,920	25,563	24,579	27,094	25,917	-
経常収支	100万ドル	-512	2,980	226	2,158	67	-506	-254	1,599	120	1,362	-
外貨準備高	10億ドル	219.1	224.5	221.6	222.4	223.4	221.1	224.3	224.3	230.6	235.7	243.0
主要政策金利	%	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50
対ドル為替レート	バーツ	35.4	34.9	35.2	35.9	36.0	36.8	36.6	36.7	36.2	34.7	33.3

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レポ金利

出所：Bloomberg

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2024/10/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年11月号)

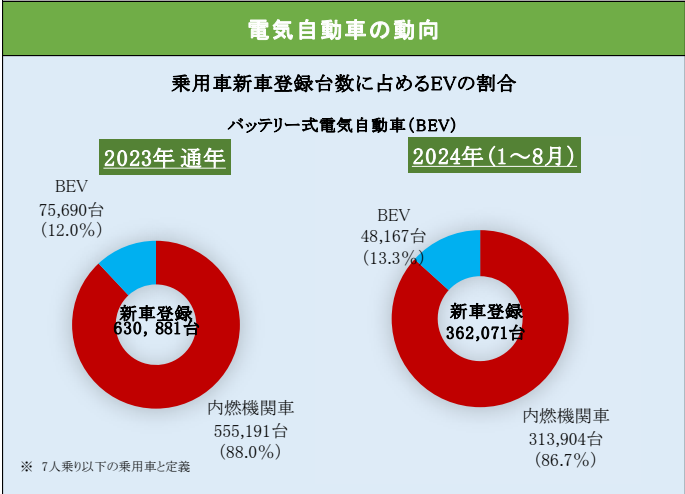
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイにおける自動車産業の動向

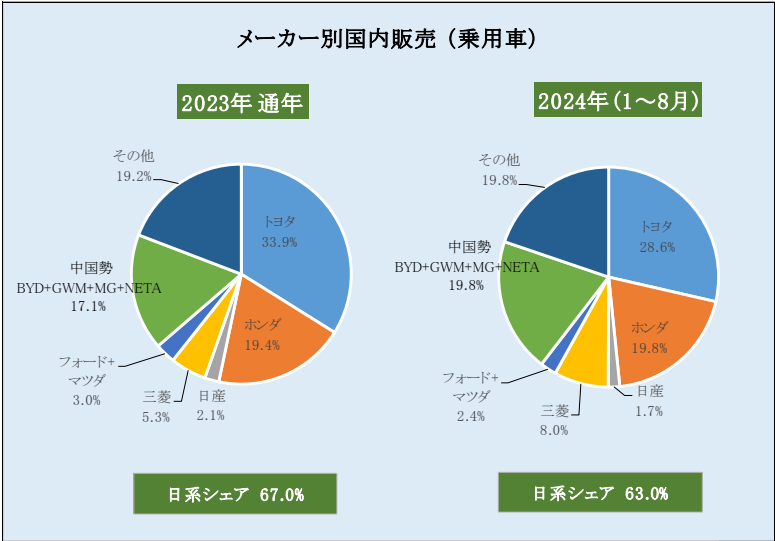
りそな銀行バンコック駐在員事務所

生産・国内販売・輸出の動向								
			2021年	2022年	2023年	2024年 (1～8月)	前年同期比 (%)	8月
【台数】		(台)						
四輪	生産台数	乗用車	599,844	600,839	648,803	376,034	88.9	46,765
		商用車	1,085,861	1,282,676	1,192,883	629,715	78.8	72,915
		合計	1,685,705	1,883,515	1,841,686	1,005,749	82.3	119,680
	国内販売台数	乗用車	251,800	265,069	292,505	154,194	79.4	18,305
		商用車	507,319	584,319	483,275	245,417	74.2	26,885
		合計	759,119	849,388	775,780	399,611	76.1	45,190
	輸出台数		959,194	1,000,256	1,117,539	688,633	95.1	86,066
二輪	生産台数		1,780,654	2,015,940	2,120,738	1,289,764	87.8	144,244
	国内販売台数		1,606,481	1,792,016	1,856,814	1,163,827	89.2	131,736
	輸出台数		965,967	1,034,840	822,608	531,543	98.3	58,468
【完成車輸出金額】		(百万円)						
四輪			561,147	619,348	719,992	480,206	105.1	60,334
二輪			75,985	73,729	68,589	41,684	90.4	4,330

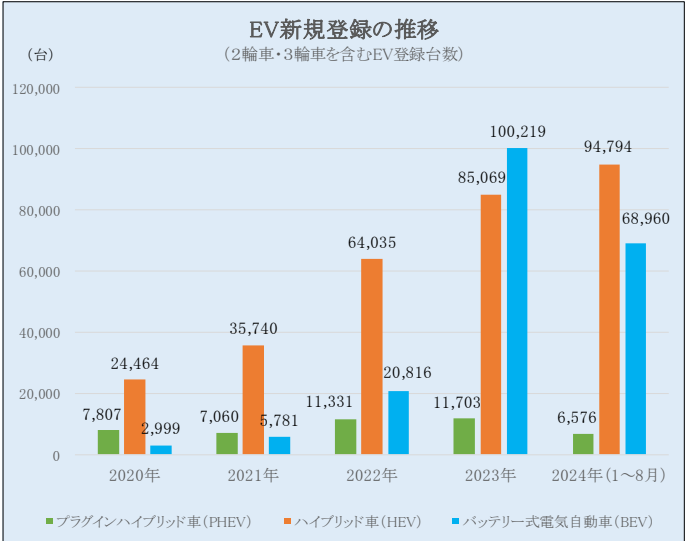
出所:タイ工業連盟 (FTI)



出所:タイ運輸省陸上運送局のデータを基に作成



出所:タイ国トヨタ自動車のデータを基に作成



出所:タイEV協会、タイ運輸省陸上運送局

◎ 注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。